

# 和紙作りヨシ原保全

大阪・淀川流域のヨシ群生地「鵜殿」を守ろうと、越前市不老町の越前和紙製造会社「山田兄弟製紙」(山田晃裕社長)は、鵜殿のヨシを原料にした和紙作りに長年取り組んでいる。ヨシは水質を浄化する働きがあるほか、雅楽器作りの材料にも用いられることから、雅楽師の東儀秀樹さんも同社の取り組みに賛同。新たな商品開発につながっている。

## 越前市の製紙会社

ヨシは「アシ」とも呼ばれ、成長すると高さ5メートルにもなる多年草。水が、近年は需要がほとんどで、窒素やリンを養分として大量に吸収しながら育つため、水が「人の手が入らないときれいにする。昔から、シは枯れ、ヨシ原ほど茎を編んで作る日よけ



淀川流域のヨシ群生地「鵜殿」で、刈り取ったヨシを積み上げる住民ら。1月、大阪府高槻市

## 大阪・淀川流域 住民らと刈り取り

東儀さんのイラストが入ったはがきを持つ山田京代さん。越前市不老町



話を。

大阪府高槻市の淀川河川敷に広がる鵜殿は、計約20段にわたってヨシが群生する。保全のために地域住民やボランティア

## 東儀さん(雅楽師)とコラボも

ア、行政が協力し毎冬、数百人規模で刈り取りや野焼き作業を行っている。しかし、現在は凍結中だが、新名神高速道路を付近の淀川に架橋して整備する計画があり、ヨシ原への影響を心配する声が上がっている。

同社は、保全活動に携わる市民団体の依頼で、刈り取ったヨシの有効利用のため、2001年から和紙

を混ぜた和紙、既存の紙に比べ価格は1.5倍〜2倍近い。販売が伸び悩む時期が長く続いたが、「この2年ほどで、環境への関心が高まり、少しずつ需要が増えてきた」(京代さん)。企業が名刺や封筒に使ったり、大学の卒業証書に採用されている。

一方、雅楽で主旋律を奏でる楽器「篳篥」の、ムベージ <http://ya-mada-keitai.com/>

「蘆舌」も、ヨシが材料だ。鵜殿のヨシは肉厚で音が良いため、平安時代から重用されてきたという。国内外の雅楽関係者でつくる「雅楽協議会」(東京)は昨年12月、高速道路建設の見直しを求め、約2万5千人近い署名を国に提出した。

活動の一環として、絵画制作でも注目される東儀さんが、雅楽器を奏でる3色のウサギのイラストを無償で同社に提供。同社は22日、それらをあしらったはがきセット(500円)やレターセット(1800円)など

骨董市安いのか、高いのか?

